

TOPICS

1

資源植物科学研究所の佐藤教授が「令和5年秋の紫綬褒章」を受章



本学資源植物科学研究所の佐藤和広教授が、令和5年秋の紫綬褒章を受章しました。佐藤教授は、オオムギ遺伝資源の基礎研究及び応用に関する多様な分野で成果を上げており、さらに、遺伝資源を管理し国内外の研究者に実験材料を提供するなど、国際的にも多大な活躍をしてきました。また、遺伝資源に含まれるゲノム構造の多様性を解明すると共に、その情報を活用したオオムギの重要遺伝子の同定ならびに効率的な分子育種技術の開発に寄与し、遺伝子改変によって重要遺伝子の機能を証明することで、オオムギの遺伝子情報が他の穀物の形質の改良に応用できることを示しました。これらの研究内容が、優良品種への遺伝子導入による新規系統の育成、さらにはそれを利用した製品開発にまで大きく貢献していることが評価され、今回の受章に至りました。

佐藤教授は「先輩や研究仲間に恵まれたおかげで、今まで楽しく研究してきました。作物の研究は時間がかかるので、まだ道半ばですが、これからも人の役に立つ研究を目指して仕事を続けたいと思います」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12537.html



TOPICS

2

女性管理職員の懇談会を開催

11月2日、事務系、技術系の女性管理職員の懇談会を開催しました。本学では、11月の1か月間を「ダイバーシティ&インクルージョンデイズ」としており、この一環として開催されました。

懇談会には、三村由香里理事(企画・評価・総務担当)、及び本学の事務系、図書系、総合技術部の女性管理職員10人が出席し、日常における業務遂行において抱えている思いや、部下育成のために取り組んでいること等、ざっばらんに情報交換を行いました。

三村理事自身の理事登用までの経緯やそのときの思いについての話があり、「家庭環境に関わらずやりがいを感じて働ける場を作ることが必要です。このような場を今後も設けて、つながりを感じながら仕事ができる環境を作ってください」と激励の言葉がありました。

本学では女性管理職員の登用を推進しており、女性管理職員がまだまだ少ないなか、管理職員同士の情報交換の機会や少しでも相談しやすい雰囲気を作り、やりがいと責任を持って働くことができる職場を目指してまいります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12556.html



Pick up!

活気溢れる2日間、“完全復活岡大祭”を開催！



本学は11月3、4日の2日間、津島東キャンパスで大学祭を開催しました。今年度は入場制限等を撤廃し、多くの在学生や地域の方々が集い、活気溢れる岡大生の姿を届けられるような大学祭にしたいという想いから、「よってらっ祭！きてらっ祭！～完全復活岡大祭～」をテーマに掲げました。

当日は、学生等によるバラエティ豊かな模擬店で彩られ、恒例の文化系・体育系クラブの各種企画や音楽ライブに加え、特設ステージでは、各種コンテストや学生団体によるダンスや演舞など趣向を凝らしたパフォーマンスが披露されるなど、両日とも大盛況でした。2日目には、幅広い分野で活躍中の城田優さんのトークショーが行われました。

大学祭を振り返って、大学祭実行委員長の益野慎之介さんは、「今年度は従来の活気を取り戻せたと思います。来場者、関係者の方々の笑顔を見ることができ、幸甚に存じます。来年度以降も活気に満ちた岡山大学の姿をお見せできるよう精進してまいります」と話しました。参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12566.html

TOPICS
3

岡大長期ビジョン2050をより確実に実現させ、社会変革を起こす“力”がある研究大学：岡山大学を目指して「岡山大学研究ポリシー」を改正

10月30日の役員会において、「岡山大学研究ポリシー」を改正しました。

今回の改正は、中期目標・計画の期が変わったことに加え、近年、経済安全保障を含む研究インテグリティの重要性や生成系AIなどのテクノロジーの社会利用などに関する点が大学においても重要なこと、さらに本学が掲げる岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現に向けた取り組みをより一層確実にするために行いました。

今回の改正について那須保友学長は「今回の改正では、生成系AIや研究インテグリティといった最新の話題を含むとともに、他の大学・研究機関ではあまり見られない大胆な決断をしています。大学として研究者の支援は「個人」ではなく「群（研究者のチーム）」を対象とすること、それも岡山大学最重点研究分野の研究を推進すること。さらに高い研究能力を有して研究活動に従事する者（群）に対してはインセンティブを与えることを明記している点です。本当の意味で大学が社会を変えられる、変革できる存在であるためにも、教職員一人一人が研究ポリシーを胸にして、前へ前へと歩み、ありがたい姿の未来を切り開いていきます」とコメントしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12553.html

TOPICS
4

フィギュアスケート部の杉山さんが4度目の全日本選手権出場へ



表彰式後の記念写真(右が杉山さん)

フィギュアスケート部の杉山匠海さんが、10月27日に開かれた第49回西日本フィギュアスケート選手権大会に出場し、男子シングルで第3位となりました。この結果により、12月に開かれる第92回全日本フィギュアスケート選手権大会への出場が決まりました。

杉山さんは11歳からスケートを始め、これまで何度も全国大会に出場するなど活躍し続けています。今回の結果を受けて、杉山さんは「今大会第3位という成績をいただきとてもありがたく思っています。また、今回の結果をもって4度目の全日本選手権に出場できることとなりました。自分の納得のいく演技ができるよう頑張ります」と話しました。

第92回全日本フィギュアスケート選手権大会は、12月20～24日に、長野市若里多目的スポーツアリーナで開催されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12614.html

PRESS
RELEASE光合成反応における光損傷と修復のメカニズム解明
～傷ついたタンパク質を見つけて分解するしくみを明らかに～

岡山大学資源植物科学研究所・光環境適応研究グループの坂本亘教授らのグループは、中国科学院、フランス国立科学研究センター、ミュンスター大学などのグループと共同で、光合成の明反応を担う分子サイズの装置「光化学系II」の機能維持に重要である光化学系II修復が、どのように引き起こされるかの分子メカニズムを明らかにしました。

光合成には光が必要ですが、光は同時に活性酸素を生じ、光合成装置を傷つけてしまうことが知られています。植物などの光合成生物は傷ついた部品タンパク質を取り替えるという仕組みを創り上げてきました。しかし、細胞の中でどのように傷ついた部品タンパク質と無傷の部品タンパク質を見分けているかは謎のままでした。今回の研究では、光合成装置の中でヒューズのような役割をする部品タンパク質に生じるアミノ酸の酸化がきっかけとなり、傷ついたタンパク質が取り除かれ、修復されることが明らかとなりました。

効率的に傷ついた光合成装置を修復する仕組みをより詳しく理解することは、光合成効率の向上につながると考えられます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1160.html

